

## 通 教 月 報

## 診 療 情 報 管 理 研 究

令和 8 (2026) 年 10 月号

編 集 武田 隆久  
発 行 人〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15  
一般社団法人 日本病院会 事業部教育 1 課  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <https://jha-e.jp/>受付時間 10:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日 毎月 1 日

## 死亡診断書が映し出す日本の医療の未来

瀬尾善宣

基礎課程小委員会 協力者  
日本診療情報管理学会 理事  
中村記念病院 副院長

診療情報管理士の業務は、診療録の管理や疾病分類ではありません。その専門性が社会に大きな影響を及ぼす業務の一つが死亡診断書の監査です。

死亡診断書は一人の患者の人生の最終記録であると同時に、日本の死亡統計を形づくる重要な基礎資料です。死亡原因の集計は、国の医療政策や予防対策、研究費配分など諸施策の根拠となります。つまり、一枚一枚の死亡診断書の正確性が、日本全体の医療の方向性を左右するといっても過言ではありません。

しかし、死亡診断書に記載された死因が必ずしも患者の病態を正確に反映しているとは限りません。診療録や画像所見、検査結果、退院時要約などを総合的に確認すると、より適切な原死因が考えられる場合があります。そのような事例を見逃さず医師に確認し、死亡診断書の適正な記載を支援することは、診療情報管理士の専門性が特に生かされる業務の一つです。

近年、日本では「老衰」が死亡原因の上位 (第 3 位) を占めています。しかし、その中には脳卒中や認知症など、より具体的な原因疾患が存在した症例が含まれている可能性が指摘されています。もし死亡診断書の監査が全国で適切に行われれば、「老衰」とされた原死因が、脳卒中や認知症などへ見直され、日本の死亡統計が変化する可能性があります。それは単なる数字の変化ではありません。日本人が何によって命を落としているのかという実態を、より正確に社会へ伝えることにつながります。死亡統計は、疾病対策や予防医学の方向性を定め、公的資源の配分や医学研究の重点領域を検討する上で不可欠な基礎資料です。死亡診断書の適正化は、我が国の医療政策を支える営みと言っても過言ではありません。

診療情報管理士は死亡統計を支える基盤を担う専門職です。一枚一枚の死亡診断書の監査が、死亡統計の質を高め、我が国の医療政策や疾病対策をより実態に即したものと導いていきます。死亡診断書を丁寧に確認し、医学的根拠に基づいた監査を積み重ねることが、やがて全国の死亡統計をより正確なものに導きます。その積み重ねは、将来の医療政策や疾病対策、さらには国民の健康と福祉の向上につながっていきます。

死亡診断書の適正化は、診療情報管理士に託された重要な使命です。そのことを胸に刻み、専門職としての誇りと責任を持って、我が国の死亡統計の信頼性を高め、日本の医療の未来を支える担い手として活躍されることを期待しています。